

田んぼの生き物を育む「コウノトリ育む農法」

一度野外で絶滅したコウノトリを再び大空へ帰す「コウノトリ野生復帰」を実現するためには、エサとなる田んぼの生き物を増やすことが必要でした。そこで、2005年から“生物多様性に配慮した米づくり「コウノトリ育む農法」”が始まり、2007年にはコウノトリの野外放鳥が行われ、現在では300羽を超えるコウノトリが日本の大空を翔けています。

コウノトリのお米を食べることで、野生復帰を応援していただける消費者の方は年々増加し、多くのニーズをいただいているため、市では生産面積の拡大を推進しています。しかし、コウノトリ育む農法無農薬栽培は、除草剤を使用しないため、雑草駆除に多くの労力がかかることから、「スマート農業の活用」による課題解決が期待されています。



コウノトリ育む農法の特徴

早期湛水

田植えまでに雑草を
繁茂させて駆除する。



深水管理 中干し延期

深水管理により雑草
の成長を抑制する。

オタマジャクシの変態
を確認してから落水

冬期湛水

- ・イトミヅによる有機質の分解を促進
- ・コウノトリの冬場の餌場

①コウノトリをシンボルとした生きもの「を」育む

②育まれた生きもの「が」お米を育む



「コウノトリ育む農法」のうち“無農薬栽培”のお米は除草剤を使用しないことから、雑草が繁茂してしまうと、**雑草駆除の労力**がかかるうえに、**収量が減少**してしまうなど、農家所得向上につながらないという課題がある。

⇒「**イオン水生成装置 フィールドマイスター**」の特徴を無農薬栽培に生かすことで、雑草を抑制し、収量を確保できるよう、“**コウノトリ育む農法**”にあったパラメタチューニングを実施している。



- ① **イネの根の成長制御**
イネの根の活性を制御
- ② **異常気象への対応**
猛暑などの異常気象に負けない強いイネを生育
- ③ **雑草の防除**
コナギ、ヒエ等の雑草をイオン水をかけることにより、田植え前に成長させ代掻きで駆逐
- ④ **完全自動制御**
データをAIが解析し、自動制御
- ⑤ **みどりの食料戦略システムへの貢献**
『次世代有機農業に貢献できる技術の確立』、『有機農業の取組面積の割合を25%に拡大』に貢献